

清 監 査 号
令 和 7 年 7 月 1 5 日

清水町長 辻 康 裕 様

清水町代表監査委員 飯 野 光 彦



清水町監査委員 西 山 輝 和



令和6年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和6年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算について、審査した結果を次のとおり報告する。

記

1. 審 査 の 対 象

- (1) 令和6年度清水町水道事業会計
- (2) 令和6年度清水町下水道事業会計

2. 審 査 の 時 期

令和7年6月16日

3. 審 査 の 方 法

決算の審査は、令和7年5月30日付けをもって審査に付された令和6年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算書について、予算書、決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表及び関係諸帳簿並びに証拠書類について計数と内容の精査を行うとともに、水道事業及び下水道事業の経営と財政の状態について審査した。

また、担当職員の説明を聴取する方法により、予算の執行及び事務処理について審査を実施した。

-7.7.15

4. 決算の状況

【水道事業会計】

(1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	264,547,000	259,308,000	5,239,000	
決算額(税込)	275,595,315	253,314,755	22,280,560	
決算額(税抜)	256,848,596	242,892,590	13,956,006	
執行率(税込)	104.18	97.69		

(2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	88,235,000	177,560,000	-89,325,000	
決算額(税込)	88,217,000	175,080,423	-86,863,423	
決算額(税抜)	88,217,000	164,245,403	-76,028,403	
執行率(税込)	99.98	98.60		

注1) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金	81,049,675 円	
○ 当年度分消費税資本的収支調整額	5,813,748 円	(3条予算で費用化)
合 計	86,863,423 円	

【下水道事業会計】

(1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	314,099,000	351,350,000	-37,251,000	
決算額(税込)	326,179,886	336,616,505	-10,436,619	
決算額(税抜)	309,346,473	326,993,843	-17,647,370	
執行率(税込)	103.85	95.81		

(2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	165,024,000	239,126,000	-74,102,000	
決算額(税込)	165,024,800	234,027,480	-69,002,680	
決算額(税抜)	165,024,800	217,700,481	-52,675,681	
執行率(税込)	100.00	97.87		

注2) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金 69,002,680 円

5. 未収金の状況

【水道事業会計】

(1) 水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
現年度分	199,867,860	198,024,010	0	1,843,850	99.08	前年度比 -0.50 ポイント
過年度分	2,531,410	608,880	0	1,922,530	24.05	前年度比 -21.74 ポイント
合 計	202,399,270	198,632,890	0	3,766,380	98.14	前年度比 -0.19 ポイント

(2) その他使用料及び手数料等収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	備 考
H24年度分 使 用 料	1,000	0	0	1,000	看板設置用地使用料

【下水道事業会計】

(1) 下水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
公共下水道 現 年 度 分	96,971,280	96,377,720	0	593,560	99.39	前年度比 -0.05 ポイント
公共下水道 過 年 度 分	586,720	509,390	0	77,330	86.82	前年度比 -5.53 ポイント
集 落 排 水 現 年 度 分	29,361,110	29,129,120	0	231,990	99.21	前年度比 -0.16 ポイント
集 落 排 水 過 年 度 分	193,990	181,070	0	12,920	93.34	前年度比 -1.67 ポイント
合 計	127,113,100	126,197,300	0	915,800	99.28	前年度比 -0.10 ポイント

(2) その他使用料及び手数料等収納状況

未収金なし

6. 過去5年間の年間総配水量(総処理水量)・有収水量及び有収率の状況

【水道事業会計】

区 分	総配水量(m³)	有収水量(m³)	有 収 率 (%)	備 考
令 和 2 年 度	1,615,849	1,267,953	78.47	
令 和 3 年 度	1,585,815	1,255,027	79.14	
令 和 4 年 度	1,536,684	1,271,682	82.75	
令 和 5 年 度	1,727,538	1,308,230	75.73	
令 和 6 年 度	1,823,546	1,335,570	73.24	

【下水道事業会計】

区 分	総処理水量(m³)	有収水量(m³)	有 収 率 (%)	備 考
令 和 2 年 度	1,017,330	650,912	63.98	
令 和 3 年 度	1,134,837	645,354	56.87	
令 和 4 年 度	933,050	631,132	67.64	
令 和 5 年 度	755,582	636,737	84.27	
令 和 6 年 度	700,779	641,054	91.48	

7. 過去5年間の企業債の状況

【水道事業会計】

区 分	企 業 債 償 還 金 元	企 業 債 償 還 子 利	企 業 債 残 高	備 考
令 和 2 年 度	59,683,218	10,113,725	876,753,827	借入額 33,400,000
令 和 3 年 度	63,387,390	9,319,010	856,966,437	借入額 43,600,000
令 和 4 年 度	61,375,532	8,602,229	826,590,905	借入額 31,000,000
令 和 5 年 度	55,270,139	8,224,458	884,420,766	借入額 113,100,000
令 和 6 年 度	55,895,203	9,221,383	876,125,563	借入額 47,600,000

【下水道事業会計】

区 分	企 業 債 償 還 金 元	企 業 債 償 還 子 利	企 業 債 残 高	備 考
令 和 2 年 度	83,182,322	6,150,839	385,397,409	借入額 9,700,000
令 和 3 年 度	69,776,779	4,635,989	393,420,630	借入額 77,800,000
令 和 4 年 度	57,648,750	3,492,845	425,271,880	借入額 89,500,000
令 和 5 年 度	51,108,515	2,865,155	464,963,365	借入額 90,800,000
令 和 6 年 度	54,430,480	2,727,926	470,432,885	借入額 59,900,000

8. 審査の結果(総括意見)

決算報告書及び財務諸表は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成され、適正に処理されている。

また、計数は令和7年3月31日現在における財政状況及び経営成績を適正に表示されているものと認められた。

9. 個 別 意 見

【水道事業会計】

(1) 収益的収支では、事業収益は256,848,596円で、前年度と比較して1,813,504円減少し、このうち水道料金である給水収益は181,698,060円となり、前年度に基本料金の減免を行ってこともあり47,082,118円の増加となった。事業費用は242,892,590円で、前年度と比較して26,961,068円の減少となった。当年度純利益については13,956,006円となり、前年度と比較して収支は25,147,564円の増加となったが、主な要因としては、給水収益の増加及び浄水場に係る修繕費や動力費が減少したことによるものである。

資本的収支では、給水区域内の管路網の更新整備及び浄水場の機器更新を年次的に進めており、令和6年度は老朽管更新として、道路工事に伴う配水管の布設替等を469.70メートル実施している。

今後の見通しは、収益的収支においては給水区域内の普及率が97%を超えていることや、給水区域内の人口の減少とともに受益者の節水意識などにより、使用水量の減少が見込まれることから、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

(2) 有収率は73.24%と前年度より2.49ポイントの減となっている。引き続き、有収率を低下させないよう計画的な漏水対策に努めること。

(3) 水道料金の未収金額は、3,766,380円で、前年度と比較して1,234,970円の増となっている。収納率は現年度分で99.08%で、前年度と比べて0.50ポイント減少しており、過年度分の収納率は21.75ポイント減少している。

給水停止実施要領に基づいて、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことによって更に未収金が減少することを目標に取り組んでももらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

水道料金は、私法上の契約に基づく「私債権」と位置付けられ、時効は5年間(民法改正以前は2年間)となっており、現在滞納繰越として残っているものについては、債務者による「承認」(一部返済や支払い猶予など)により時効が中断や更新されているものであると思うが、20年以上前のもの(一番古いもので平成13年度分)や債務者の所在地が不明であったり連絡がつかないものについては、法令に基づいた「債権の免除」や「権利の放棄の議決」による整理を行って、事務の効率化を図ることを検討する必要があると考える。

(4) 「流動資産」の「貯蔵品」203,900円については、修繕のためのストックとして保管している「石綿セメント管用補修資材」とのことであるが、石綿セメント管への更新工事が令和5年度で完了しており、今後補修資材は使用することはないとのことであるので、年度末までに処理をするべきと考える。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理に万全を期して安全で良質な水道水を安定供給し、町民生活の向上と福祉の増進に貢献するため、合理的で健全な経営を期待するものである。

【下水道事業会計】

- (1) 収益的収支では、事業収益が309,346,473円で、このうち下水道使用料収入は114,847,635円、一般会計からの補助金等が94,615,000円となっている。事業費用は326,993,843円で、当期純損失は17,647,370円となった。

資本的収支では、公共下水道事業で国庫補助事業を活用し下水道管渠内のカメラ調査及び下水終末処理場に係る機器更新を実施しており、収入が165,024,800円、支出が234,027,480円となり、支出に対し不足する額69,002,680円は、過年度分損益勘定留保資金69,002,680円で補てんしている。

令和6年度末時点での処理区域内人口は6,389人で、前年度と比較し79人の減、水洗便所設置済み人口は6,276人で、前年度と比較し76人の減となった。今後の見通しは、収益的収支においては区域内の水洗便所設置率が98%を超えていることや、処理区域内の人口の減少とともに受益者の節水意識などにより、排水量の減少が見込まれ、さらには、施設の維持管理や更新整備が必要とされるため、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

- (2) 年間総処理水量は700,779立方メートルで、前年度と比較して54,803立方メートル減少し、有収水量は641,054立方メートルで、前年度と比較して4,317立方メートル増加した。年間総処理水量を事業別に見ると、公共下水道事業で前年度と比較して39,222立方メートル減少し、集落排水事業でも前年度と比較して15,581立方メートル減少した。引き続き、不明水進入防止対策などを計画的に進め、より一層改善を図られたい。

- (3) 下水道料金の未収金額については、公共下水道事業670,890円、集落排水事業244,910円であり、公共下水道事業で84,170円の増加、集落排水事業で50,920円の増加となっている。水道事業会計と同様に、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことによって更に未収金が減少することを目標に取り組んでもらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理と計画的な更新を行い、生活排水と雨水の安定処理を行い、快適で良好な生活環境を維持していくために、合理的で健全な経営を期待するものである。